

中部ニュース

シネスコ版

道新 16140 夏から一ヶ月後、小樽、函館 (14.8月14日付)
高新 16224 日 本編同上
新潟 1613
中日新 1666

No. 390 36.7. 1

一、池田さんのニー・フロンティヤ

アメリカ、カナダ訪問の旅を終えた池田さん夫妻は、六月三十日帰国。大団の宰相並みの扱いに留守番役をうらやましがらせるなど東洋のイギリスと池田さんは御気嫌です。

記者会見では、当面の党内人事や内閣改造をどう乗り切るか、アメリカ仕込みのうんちくを披露します。

党内事情の複雑さは、國際政局以上というのが、通り評判。これをいかにさばくか、これからが、池田さんの本当の腕のみせどころと言えましょう。

一、惨！豪雨禍を行く

兵
神奈川
長野
山梨

西日本から中部、関東、さらに東日本一帯に停滯した今年の梅雨前線は、各地に集中豪雨のツメ跡を残し、甚大な被害をもたらしました。

なかでも「あばれ天竜」の支流に広がる長野県南信地方は、五二八ミリという記録的な豪雨にみまわれて、各所で河川が決壊。濁流は飯田市に流れ込んであつという間に全市をおおい。飯田線も随所で寸断され、交通はマヒ状態に陥りました。特に野底川の氾濫で沿岸の民間は跡形もないほどあらわれ、さんたんたる光景を見せています。

さらに水魔のツメ跡は山津波を伴つて、平和な秘境伊那谷をおそい、大河原部落に壊滅的な打撃を与えました。高さ一四〇メートルに及ぶ山肌が、川の中にくずれ落ち、川の流れを変えたため、部落三十五戸が一瞬に全壊、五十人に及ぶ死者、行方不明を出したのです。想像に絶する悲劇のあまり、絶望と恐怖におののきながら、ひたすら救援を待っています。

このように被害を大きくしたものにダムが考えられています。灌漑、発電と並んで洪水調節を目的としたダムがありながら水量の見込み違いから、洪水に拍車をかける結果となり、安心していた農民に亦しても予想しない災害をもたらしたのです。

一方、平坦地を襲った豪雨は、土砂崩れをもたらし、神奈川県だけでも五十六人尊い犠牲者を出したのです。また、兵庫県神戸でも四十人の犠牲を出し、その殆んどが、粗製乱造の宅地造成によるガケ崩れの被害でした。しかし、この宅地造成を規制する法律がないため、野放し状態におかれている現状です。

狭い国土が招いた悲劇とは言え、毎年くり返されるこの惨事は、人災と言われ、政治的灾害といわれる要素があるのです。

630 p.m.

4P40R

130 p.m.

製作配給 東京中日新聞 中部日本ニュース映画社